

News Letter

1
教育

ゼミで議論を重ねた政策提言を 埼玉県知事に届けた!

— 知事と学生の意見交換会 —

Vol. 18
February
2019

11月1日(木)、本学の学生が、上田清司埼玉県知事に政策を提言する「知事と学生の意見交換会」が開催されました。この取組は2010年に始まり、若者の感性を県政に活かすとともに、大学を生きる学習の場とすることを目的に開催され、今回で9回目を迎えます。これまでに学生たちの提言が反映された事例もあります。

今回の提言にあたって学生は、埼玉県職員による出前講座(市民向けの政策セミナー等)を聴講したり、現地調査を行いながら政策研究を進め、とりまとめました。上田知事からは、既存の「コバトン健康マイレージ」に、ゲーム要素を取り入れて若者を取り込む改善策を提案した齋藤友之ゼミの提言について、「新しい発想で面白い。実現可能性も高そうで素晴らしい」と称賛されました。



3 【政策提言のテーマ】

- 1 未来への道を拓くビッグデータ活用術
(工学部 久保田尚 教授ゼミ)
- 2 開かれた子ども食堂をめざして～地域交流と共に～
(経済学部 江口幸治 准教授ゼミ)
- 3 「空白の19～24」-政治は僕らにリーチするか-
(経済学部 松本正生 教授ゼミ)
- 4 次世代が誇りを持てる商店街-子どもをつれて、ホシカワ-
(経済学部 川端庸子 准教授ゼミ)
- 5 あなたの一步が未来を変える!～新・埼玉県コバトン健康マイレージの提案～
(経済学部 齋藤友之 教授ゼミ)



- 1 政策提言を行う学生
- 2 総評を述べる上田知事
- 3 来場者で満席となった意見交換会の様子



2
教育

新たな価値を創造する力を育成するために 「埼玉県高等学校長協会との高大対話」を開催

12月10日(月)、「埼玉県高等学校長協会との高大対話」を本学で開催しました。

この取組は、高大接続の重要性が高まっていることを踏まえ、埼玉県の県立高校と県内唯一の国立大学である本学との直接的な意見交換の場として昨年度初めて開催したもので、今回は昨年に引き続き2回目の開催となりました。「高大接続教育改革」をテーマとして、大学入試に関する話題にとどまらず、文理融合教育や、生徒・学生の主体性についてなど、人材育成という観点から幅広い意見交換が行われ、高校と大学の互いの考え方・状況について理解を深める上で大変有意義な機会となりました。



▲挨拶する山口宏樹 学長



▲会場の様子(左側:高等学校長)

3 教育 【埼玉大学創立70周年記念事業】 創立70周年カウントダウンボードを正門に設置

2019年11月3日(日)の創立70周年記念日に向けて、学内外へのPRを目的に「埼玉大学創立70周年カウントダウンボード」を正門に設置いたしました。このボードは、井口壽乃 副学長(広報・社会連携担当)がデザインしたもので、井口副学長のゼミに所属する齋藤未来さん、古川光流さんがハンドモデルとして出演しています。

埼玉大学では、今後も創立70周年記念事業として各種行事等を企画して参ります。詳細については順次ホームページを通じて、ご案内いたしますので、奮ってご参加いただければ幸いです。



▲正門に設置されたカウントダウンボード
(左から)埼玉大学マスコットキャラクターメリンちゃん、井口副学長(広報・社会連携担当)、ハンドモデルを務めた人文社会科学部1年 齋藤さん、古川さん

5 教育 学生表彰式を実施 一顕著な学修成果やスポーツ活動を称えて

10月13日(土)、平成30年度第1回学生表彰式を開催しました。この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。今回は、学術研究として7名、課外活動として10名および4団体、その他表彰に値すると認められた1名に対して、山口学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。



▲山口学長を囲んでの記念撮影

7 研究 「CTA大口径望遠鏡1号基」がスペイン領ラ・パルマ島に完成 一大学院理工学研究科 寺田准教授らが参画する国際研究プロジェクトが開発

大学院理工学研究科の寺田幸功 准教授らの研究グループが参画している国際共同研究プロジェクトが開発した次世代望遠鏡「チェレンコフ・テレスコープ・アレイ (CTA)」大口径望遠鏡の1号機が、大西洋のスペイン領ラ・パルマ島に完成し、10月10日(水)に記念式典が行われました。

従来の観測装置に比べ飛躍的に感度が向上し、宇宙誕生後16億年後の若い宇宙の姿を見ることができると期待されています。本学はCTA日本コンソーシアムが立ち上がった2009年度からのメンバーで、主に①大口径望遠鏡の焦点面検出器の開発と②CTA望遠鏡で実現する宇宙物理と観測計画の2

4 教育 本学学生が「第8回学生政策提案 フォーラム in さいたま」で優秀賞を受賞!

さいたま市主催の「学生政策提案フォーラム in さいたま」が11月18日(日)にさいたま市生涯学習総合センターで開催され、本学から経済学部齋藤友之ゼミナールの学生がエントリーしました。

今年度は、「健康で活力ある『スポーツのまちさいたま』」でした。市民が健康で生きがいを持って心豊かに暮らせる地域づくりのため、スポーツを活かしたまちづくりをテーマとして、5大学から10グループの学生が参加し、政策提案をプレゼンテーションしました。齋藤ゼミナールは、「Reward×Walk ～歩いて手にする商品と健康～」をテーマに、健康無関心層である若者に、より効果的な情報拡散方法を提案し、企業と提携して行うことで実現性の高いものと評価され、優秀賞を受賞しました。



▲優秀賞の賞状を手に記念撮影
(前列左より3人目:清水勇人さいたま市長)

6 研究 3名の教員に学長奨励賞を授与 研究活動に顕著な功績

11月9日(金)、平成30年度学長表彰 表彰式を開催しました。学長表彰は、職務に顕著な功績や社会的な功績があった教職員を表彰するもので、「学長奨励賞(教育・研究)」を大学院理工学研究科 川本健 教授、研究機構研究企画推進室 坂井建宜 准教授、「学長特別賞(みずき賞)」を大学院理工学研究科 川合真紀 教授が受賞しました。



▲前列左より、学長奨励賞の川本教授、山口学長、学長特別賞の川合教授



▲左より、学長奨励賞の坂井准教授
(11月12日に表彰)

テーマに貢献しており、特に①の焦点面検出器開発は、本学が立ち上げた較正システムが東京大学宇宙線研究所の試験装置の基礎になっています。

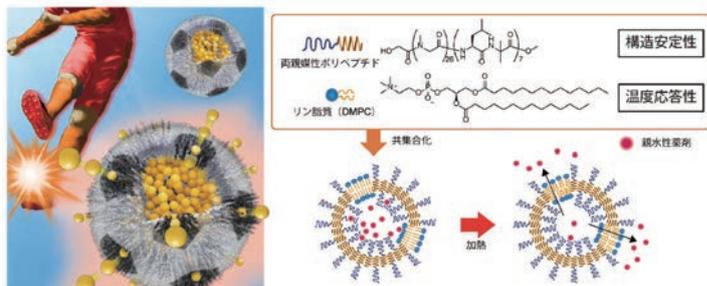
ラ・パルマ島の山頂付近に完成した▶
CTA大口径望遠鏡1号基
(東京大学宇宙線研究所より)



8 研究 温度応答性ナノカプセル-ペプチド集合体とリポソームのいいとこ取りの機能化- 大学院理工学研究科 廣瀬教授

理化学研究所創発物性科学研究センター創発生体工学材料研究チームの上田一樹 研究員、伊藤嘉浩 チームリーダー、本学大学院理工学研究科の廣瀬卓司 教授らの共同研究チームは、両親媒性ポリペプチドとリン脂質を共集合させることで、温度に応じて内包分子を放出できるナノカプセルの開発に成功しました。

今回、共同研究チームが作製したナノカプセルは、「構造安定性や形状均一性」といったペプチド集合体としての機能と、「温度に応じて相転移を起こす」というリポソームとしての機能を併せ持っています。がん治療をはじめとするさまざまな薬剤体内輸送用カプセルや有機反応・生物反応の効率を高めるナノリアクターへの応用が期待されています。



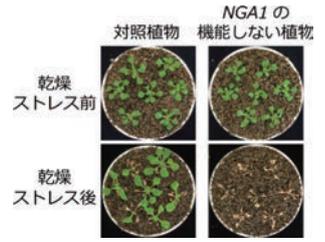
▲(図)加熱により内包分子を脂質ゲートから放出するナノカプセル

9 研究 乾燥に適応するためのホルモン制御—乾燥ストレス応答に関わる植物ホルモン合成の制御因子の発見— 大学院理工学研究科高崎特任助教、高木教授

理化学研究所環境資源科学研究センター機能開発研究グループの佐藤輝 特別研究員、篠崎一雄 グループディレクター、パイオリソース研究センター実験植物開発室の井内聖 専任研究員、本学大学院理工学研究科の高崎寛則 特任助教、高木優 教授、東京大学大学院農学生命科学研究科の篠崎和子 教授らの共同研究グループは、乾燥ストレス応答に必要な植物ホルモンのアブシジン酸(ABA)の合成を制御する転写因子[NGA1]を発見しました。本研究成果は、乾燥ストレス条件下における植物の初期応答の分子メカニズムを明らかにする研究の足掛かりになるとともに、乾燥ストレス耐性が向上し

た植物の作出につながると期待されています。

今回の研究は、国連が2016年に定めた17項目の「持続可能な開発目標(SDGs)」のうち「13.気候変動に具体的な対策を」に大きく貢献する成果です。



(図)NGA1遺伝子が機能しない植物では乾燥ストレス耐性が低下する▲

10 国際 「高校生のためのグローバルセミナー」に 本学の留学生や留学経験のある日本人学生が参加—外国人観光客へ私たちができるおもてなし—

10月28日(日)、「高校生のためのグローバルセミナー」が埼玉会館で開催されました。埼玉県内の高校生を対象に、国際感覚を身につけ、グローバルな人材となるきっかけづくりを目的に毎年実施しています。今回は、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックを控え、多くの外国人観光客の来県が見込まれている中、「外国人観光客へ私たちができるおもてなし」をテーマにセミナーが行われました。

本学人文社会科学研究科長沢誠 准教授をファシリテーターとして、アトレー・シュレヤスさん(本学教養学部・インド出身)、張鵬さん(本学工学部・中国出身)、小野亜沙美さん(本学教養学部)のほか2名の大学生、高校生を加えてのパネルディスカッション。その後、高校生はグループに分かれ、留学経験のある日本人の大学生、外国人留学生とともに討論を行った後、テーマについて発表しました。



▲講評を行う長沢准教授

11 国際 2018年度JICAモンゴル国国別研修 「カリキュラム・マネジメント・サイクル 導入支援研修」を実施

9月25日(火)に、これまで本学で実施したモンゴル国国別研修(2016年度「新カリキュラム実施・評価・改善に係る能力強化」、2017年度「カリキュラム・マネジメント・サイクル運営強化研修」)の成果を踏まえ、今年度はカリキュラムの開発と検証を焦点に研修を行いました。研修はモンゴル国におけるカリキュラム開発に関わる意思決定権を有する高位者5名が来日・参加しました。

教育学部自然科学講座の岡本和明 教授が「2016年および過去の実績を踏まえ—モンゴルの理数教育改善を進める為に必要な手立てとは—」について、松寄昭雄 准教授が「2016・2017年度本邦研修成果品解説」について、それぞれ講義を行いました。



▲山口学長を囲む国別研修参加者

12 国際 「埼玉学のすすめ」 Saitama Bus Tour Held Successfully on Dec. 1st, 2018.

12月1日(土)、県内在住の外国人留学生39名、日本人学生17名(留学経験者)が、「埼玉」をより良く知るための「埼玉学のすすめ」バスツアーに参加し、大宮盆栽美術館、埼玉県防災学習センター、埼玉県環境科学国際センターを訪れました。

各所の案内や通訳を日本人学生が担当し、外国人留学生は、大宮盆栽美術館での盆栽鑑賞、埼玉県防災学習センターでの体験ツアー、埼玉県環境科学国際センターでは生態園等の見学を行いました。参加学生らは、日本において守るべき伝統や環境、そして災害から身を守ることに、共に考え、体験することで、文化相互理解の促進を図りました。



▲大宮盆栽美術館



▲埼玉県環境科学国際センター

13 国際 Dr. Jessica P. Houston(日米フルブライト 交流事業による招へい研究者)による講演会を開催

12月13日(木)、本学大学院理工学研究科に客員研究員として在籍している、米国ニューメキシコ州立大学のDr. Jessica P. Houstonによるワークショップ「International Research Collaboration in Saitama University: From the View of an American Researcher」を大会会館2階ラーニングコモンズにて開催しました。

講演会では、彼女が研究活動を行っている研究室の鈴木准教授と知り合った経緯やフルブライト奨学金について、続いて日本での生活や研究活動について説明がありました。また、共に来日した、同じく研究者であるご主人のDr. Kevin Houstonからも自身の研究テーマである乳がん治療薬や日本での生活についてお話いただきました。

講演会後の質疑応答では、日本とアメリカの大学生の違いや、日本で研究するにあたって苦労したこと等、多くの質問や活発な意見交換があり、ワークショップは盛会のうちに終了しました。



▲ワークショップの様子

14 地域 「音楽の贈りもの—第19回 埼玉大学教育学部芸術講座 音楽分野教員による演奏会—」を開催

12月9日(日)、彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホールにて、本学教育学部芸術講座音楽分野教員による演奏会「音楽の贈りもの」を開催しました。この演奏会は、埼玉大学創立50周年である1999年に開催されて以来、地域の方々をはじめとした多くの皆様に親しまれており、今回で19回目を迎えました。

今回の演奏会では数々の名曲が演奏され、最後は恒例となっている鈴木静哉教授の編曲による「クリスマスメドレー2018」が披露され、会場は大きな拍手に包まれました。次回は2019年12月22日(日)に開催の予定です。



▲司会を務めた鈴木静哉 教授



▲全教員によるクリスマスメドレー2018

15 地域 「やきとり ひびき」とのコラボ企画で新メニューを考案!
学生が課題解決型授業で企業の課題に取り組みました

本学学生と「東松山名物みそだれやきとり」でお馴染みの株式会社ひびき店舗のやきとりひびき庵別館埼玉県庁前店とが協働して開発した新ランチメニュー「みそだれやきとり煮込みうどん」が商品化され、12月12日(水)から同店での提供が始まりました。この取組は、課題解決型プログラム授業の一環として、学生が新メニューを考案したものです。開発にあたっては、やきとりひびきの企業体としての特色をリサーチしたり、客層や季節感を考慮するメニューをマーケティングする等の調査を進めて新メニューのベースとする案が決定し、その後、ひびき社員との討議を重ねて商品化されました。



▲前列右 チームリーダーの小松崎さん、後列右 石阪教授

17 学生 全日本学生フォーミュラ大会に本学学生サークル
“Formula Project SU-spirited (FPSU)” が出場!
レーシングカーの製作を通じてものづくりの総合力を競う

第16回全日本学生フォーミュラ大会が9月4日(火)～8日(土)の日程で、エコパ(静岡県小笠山総合運動公園)で開催され、本学学生サークル「Formula Project SU-spirited (FPSU)」が昨年度に引き続き出場し、総合42位ならびに特別表彰として日本自動車工業会会長賞(全審査項目クリア)を受賞しました。本大会は、2003年から公益社団法人自動車技術会の主催で開催。学生がチームを組んで企画・設計・製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーを持ち寄り、車の走行性能だけでなく車両コンセプト・設計・コスト審査などもものづくりの総合力を競うとともに、自動車技術ならびに産業の発展振興に資する人材を育成することを目的としています。



▲大会を終えてチーム全員での記念撮影 エコパにて

16 同窓生 埼玉大学へ「おかえりなさい」
-第8回ホームカミングデーを開催しました-

10月13日(土)にホームカミングデーを開催いたしました。ホームカミングデーは、大学と卒業生・元教職員・地域の皆様など、本学に関係する方々をつなげるイベントです。8回目の開催となる今年度も同窓会のご協力のもと、本学教養学部卒業生で2016年度文化功労者顕彰の小松和彦さん(埼玉大学フェロー)をお迎えし、講演会と懇親会を行いました。懇親会は、山口学長及び榎木埼玉大学同窓会長の挨拶の後、金子ホームカミングデー同窓会実行委員長の乾杯発声で始まり、卒業生・教職員・在学生の枠を越えて皆さん歓談されていました。2019年は創立70周年を迎えます。沢山の企画をご用意しますので、同窓生とお誘い合わせのうえ、皆さまのご参加をお待ちいたします。



▲埼玉大学フェロー小松先生による講演会
大学院人文社会科学部研究科2年 喜多さん
から花束贈呈

18 男女 共同参加 輝け女性研究者! 第2回 彩の国女性研究者
ネットワークシンポジウムを開催

12月21日(金)、本学総合研究棟シアター教室において「第2回 彩の国女性研究者ネットワークシンポジウム～埼玉県の女性研究者・技術者の活躍推進と次世代育成に向けて～」を開催しました。山口学長の開会挨拶に続き、大学院理工学研究科川合真紀 教授のスピーチが行われました。第1部では、「次世代育成のための機関紹介」と題し、彩の国女性研究者ネットワークに参画する6つの機関の方々にご登壇いただき、機関のご紹介、研究者としての働き方、研究内容などについてお話をいただきました。第一線で活躍する研究者からの進路選択・キャリア形成に役立つ様々な事例について、多くの学生が熱心に聞き入っていました。第2部では、研究者の方々による研究についての発表が行われ、参加者からは「多様な研究内容が聞けてよかった」との声が聞かれました。



▲パネルディスカッションの様子

埼玉大学基金室より 埼玉大学修学サポート基金のご案内

いつも埼玉大学基金へのご理解とあたたかいご支援を賜り、ありがとうございます。今回は、埼玉大学修学サポート基金のご紹介をさせていただきます。修学サポート基金は、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行うことを目的として、埼玉大学基金内に置かれる特定基金として平成28年末に設立いたしました。この修学サポート基金に個人の方からいただいた寄附金については、所得税の寄附金控除を申告される際に、所得控除か税額控除のいずれかを選択可能です。税額控除は多くの場合において、減税効果が高いことが特徴です。(目的1、目的2、或いは「目的区分を問わない」として、埼玉大学基金にご寄附をいただいた場合は、所得控除のみとなりますので、ご注意ください。)

詳細は下記ホームページから「埼玉大学基金の目的」及び「税制上の優遇措置」をご覧くださいませようお願いいたします。今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

目的1	特定重点事業の推進 埼玉大学国際学生センター (国際学生寮) 新設事業 埼玉大学創立70周年 (2019年度) 記念事業
目的2	埼玉大学の機能強化等将来構想実現に向けた中・長期戦略事業 教育・研究・学生支援、国際交流支援、社会連携支援
特定基金	埼玉大学修学サポート基金 経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援

埼玉大学修学サポート基金の使途

授業料・入学科 減免事業	奨学金事業
海外留学 支援事業	TA・RA 事業※

※学生の資質を向上させることを主たる目的として、学生を教育研究に係る業務(TA:ティーチング・アシスタント、RA:リサーチ・アシスタント)に雇用するために係る経費に充てられます。

◆埼玉大学基金のご報告

平成31年1月末の状況 **368,050,978円**
うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 **611,792円**

埼玉大学基金室(広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/
古本募金「きしゃぼん」についてはホームページの「お申し込み方法」(http://www.saitama-u.ac.jp/funds/pay/)の「3.古本募金」からもご覧いただけます。

